

## 令和4年度 学校評価保護者アンケートの結果

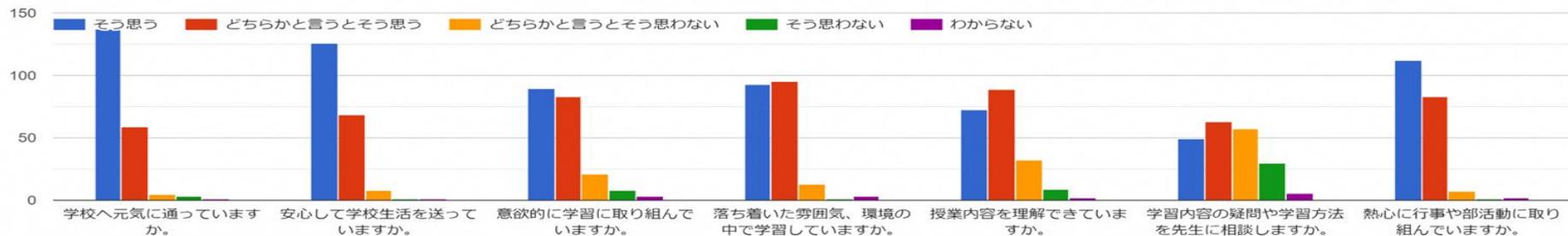
春寒の候、皆さまにおかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。2022年12月に実施した学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。200を超える回答をいただきアンケート結果を真摯に受け止め、今後の教育活動の充実・改善に生かしてまいります。

### ■学校生活について

とくに『元気に通っているか』『安心して生活を送っているか』では、「そう思う・どちらかと言うとそう思う」合わせ90%を超え、好意的な評価いただいていると感じられる結果となりました。保護者意見からも「コロナの影響がありながらも、生徒が意欲的に活動できる工夫をしてくださりありがとうございます。」「子ども最優先の学校運営に感謝しています」など励ましの言葉をいただき感謝しております。

しかし『学習内容の疑問や学習方法を先生に相談している』では、「どちらかと言うとそう思わない・そう思わない」や「わからない」を合わせると50%近くとなり、保護者からも「話しやすい雰囲気づくりをお願いしたい。」「長く休むことになった場合に授業の遅れ、課題への対応に不安を感じた。」などが上がっています。相談体制や質問のしやすい授業や環境づくり、基礎・基本が定着できるような授業づくりとなるよう努めてまいります。また後期より始めた授業の板書や授業内でのプリントを配信する『どこでもスタディ』の更なる充実を図っていきたいと思っております。

生徒（お子様）の学校生活や授業の様子について



## ■授業について

各学年、各教科で、生徒へ授業評価アンケートを行いました。各学年、各教科とも『授業はわかりやすいか』『板書やプリント内容はわかりやすい』では、おおむね良い評価をもらいました。また『授業中問題を考えたり、話し合ったりする時間を適切に取っているか』でも多く取り入れられていると生徒も感じているようです。教科横断型や問題解決学習をより一層進めてまいります。今後も『主体的・対話的で深い学び』を体現するために、昨年度導入された ChromeBook など ICT 機器を活用しながら、グループワーク等を充実させてまいります。また、特別に支援を要する生徒が増えてきているので、ユニバーサルデザインの志向を意識しながら、学習の基礎基本の定着を目指します。

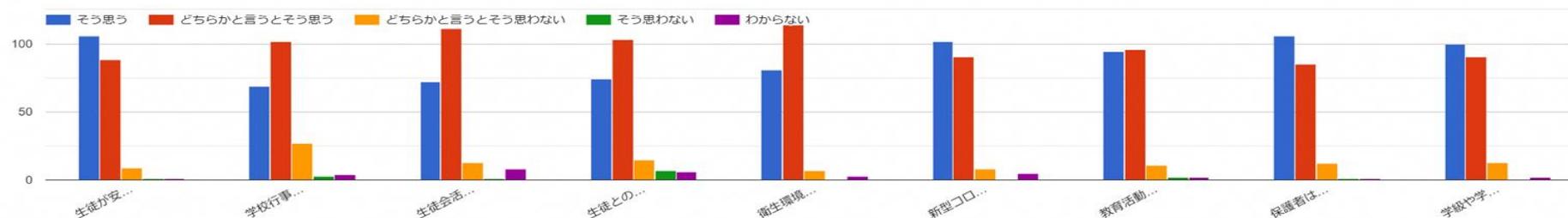
## ■学校運営について

保護者からはおおむね好評をいただいているように感じています。『コロナ禍の学校運営については、先生方に多大なご負担をいただき、保護者として感謝しています。』など、基本的な感染予防対策を考慮した学校運営にご理解いただいていると感じられ、感謝しています。

また「学校行事が充実している」に関しては、コロナ禍もあり「どちらかというと思わない」「そう思わない」「わからない」が昨年度は、40%近くになっていましたが、今年度においては、「そう思う」「どちらかというと思おう」が80%となりました。1月に2年生で保健体育のダンス、1年生で英語の SEPRO の授業に参観していただくことができました。引き続き感染状況を鑑みながら、保護者の方の参加できる機会を可能な限り増やしていければと思っています。

来年度も学校だよりや学校ホームページ、学校配布物、メール配信など多くのツールを使いながら情報発信に努めてまいります。

学校運営について



【保護者の方からのご意見、ご質問に関する回答】

Q. 面談期間中などの再登校がとても負担になっている。とくに、夏の炎天下に遠い自宅に帰りまた出かけていくのは、保護者としてもとても気掛かりです。

A. 面談期間中に、部活動があり生徒が待機できる施設がないため、活動部活により再登校を多く設定してきました。状況に応じて学校図書館を開放していましたが、一堂に集めることは不可能です。昨今の気象変化による夏場の再登校に関しては考慮してまいります。

Q. コロナ禍ですが、学校の様子を理解しやすい状況を作っていけるとよい。

A. コロナ禍により、授業公開など保護者の来校機会が激減しました。そのため保護者の方から学校の様子がわかりづらくなったという声が寄せられています。学校だよりや学校ホームページでは伝わらない雰囲気を生で感じ取っていただきたいので、徐々に学校行事や授業公開、三者面談、説明会を含め、来校できる機会を増やしてまいります。

Q. コロナ対応に重点を置きすぎて、マスクを外す選択肢も検討してほしい。

A. 感染拡大防止を鑑み、子どもたちの安全を優先し、市ガイドラインを遵守しながら、子どもたちの教育活動が可能な限り実施できるように努めてまいります。学校行事等は、施設の入場規模なども考慮に入れつつ、ガイドラインの範囲の中、形態や内容を工夫しながら実施してきました。また、運動時には外してもよいと声を掛けていますが、外したまらない生徒もいる現状です。

Q. 定期試験の平均点や順位、偏差値を提示してほしい。

A. 中学校においては「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」で評価を行っています。文部科学省で定めた学習内容をどの程度理解し、身に付けているかを「観点別学習状況の評価」と「評定」の二つで表します。定期試験の順位や偏差値を基準として評価を行っているのではなく、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況の評価するものであり、「観点別学習状況の評価」を基本として、生徒の学習の到達度を適切に評価しています。今後も定期試験の平均点や順位、偏差値等を提示することはありません。また、定期試験の結果だけでなく、日頃の課題レポートや実習課題、小（技能）テストなど多角的な資料から観点別評価を行っています。グループワークなどを通じて、互いに教え合い、学び合える、主体的な学びにつながることを期待しています。

Q. 二期制にした理由、メリットを知りたい。

A. 新型コロナ感染が広がった一昨年より授業時間の確保から特別二期制に変更し、学習の継続性を重要視してきました。また「観点別学習状況の評価」が4観点から3観点へ移行されたともあり、定期試験の結果に比重が集まらないように評価資料を整え、公正な評価を行うために二期制へ変更しました。

Q. お休みしたときの授業の遅れや課題への対応に不安を感じた。

A. 欠席期間中の提出物に関しては考慮しています。また9月頃からどこでもスタディ（どこスタ）を始めて、ロイロノートやGoogle クラスルームに授業資料や課題、板書内容を掲載しています。不登校生徒や特別に配慮を要する生徒への対応も含め、十分な対応とはまだまだ言い切れないので、今後も検証を進め、充実させてまいります。

その他にも「先生や生徒さんが丁寧に挨拶してくれるのはとても良いと思いますし気持ちが良い」「合唱コンではクラスで練習して人前で発表した経験は日々の会話からですが大事な成長の過程を感じることができた」「篠原中の生徒の不安を取り除いて、あらゆる意味で安心して学校生活を送れるようにしてあげてほしい」と叱咤激励を頂きました。今後も保護者、地域そして何よりも生徒から信頼が得られるよう職員一同、研鑽しながら学校運営に努めてまいります。